

## 第2回 霧島リノベーションまちづくり戦略会議 2020 議事録

日 時 令和2年10月25日(日) 13:00~18:00

場 所 霧島市役所別館4階 大会議室

会議参加

須部貴之、野崎恭平、大岩根尚、酒井亮(リノベリング)

有村健弘、松本一孝、大西正将、徳永功一郎、白水梨恵、日永田剛、増田泰博

玉城拓哉、駒井恵太、伊久良テルミ、中村慎也、長里紀亨、徳永誠、寶園純一、永川祥平、

田代明歩、堀田康二、濱田孝子、仲里香織、松俊輔、岡元健二、関山万里菜、今吉直樹、

新里大輔、松枝俊顕、塩水芳一、山口仁美

市職員(谷口部長、池田課長、梶G長、西村サブリーダー、山田、勘場、宮之原)

タスクフォース:有馬(都市計画課)、堀内(財産管理課)、橋内(建築指導課)

オブザーバー

参加者数 計41名(委員7名、一般参加者20名、市職員10名、講師等4名)

**須部** それでは始めていきます。第二回の戦略会議、霧島から一緒に踏み出そうということでやっていきたいと思います。今回、座長をさせていただいております、鹿児島市からきました須部と申します。今日の流れご説明させていただきますと、30分くらいかけて主催者挨拶とこれからの取り組みと趣旨説明、振り返りと、チェックインということで、グループごとみなさんで自己紹介していただいたりとかいう時間を最初に持ちたいと思います。

それから今日のメインであります、SDGsカードゲームというのを講師の二人に来ていただいておりますので、そちらのほうをみなさんと一緒にやってみようということになります。そこからショートレクチャーとか対話の場を持ちまして個人でワークの時間もございます。霧島の今の現状を見てなにか自分の中でこれやったらいいんじゃないかみたいなところのプロジェクトの種を生み出していきたいなと思っています。最後はグループごととかプレゼンテーションの時間もとる予定です。最後まとめて18時前後を終了予定としています。

今日の目的は、今日初めて同士の方たちも多いと思うので、まず霧島同士のつながりをつくるというのを大事に考えています。この場にいる人たちのつながりからSDGsってなにと思われている方多いと思いますが大丈夫です。今日理解できると思います。全部は理解できないと思いますが、今日SDGsを知ってもらって、世界とつながる感覚を体験してもらってその中から今住んでいる霧島の都市経営課題、いわゆる人口減少とか少子高齢化も含めての大きな問題から、小さい地域の課題みたいなところを抽出、可視化するみたいなところですよ。言語化していったそこからなにをすればいいのかということ、皆さんのアイデアの中からプロジェクトの種を生み出していくというところを今日のゴールとしていきたいと思っています。

プレゼンテーションというのはプロジェクトの種みたいなところをプレゼンしてもらう時間になるかと思っています。みなさんにもお願いがあります。この場のルールなんですが、前の

めりな姿勢でご参加いただければうれしいなという風に思います。限られた時間ですので、グループワークとかの時間配分は空気を読んでいただくと助かります。長丁場になりますがお付き合いいただければと思います。早速ですが、主催者のあいさつということで、池田課長からご挨拶いただきます。



課長) おつかれさまです。本日は戦略会議の2回目に参加いただきありがとうございます。委員の方は1回目の会議から参加いただいています。第1回目は公開ということで120名ほどの方に参加いただきました。2、3回とあるわけですが委員の方だけでワークショップを最初考えていたんですが、やはりほかの市民の方にも参加いただきたいということで委員の方々がブレーンといいますか、お声掛けいただいて集まりいただきました。長丁場になりますが、次につながる形で戦略会議がうまくいけばと思います。あと商工振興課の職員が4名ほど、あと市の中ではタスクフォースをして都市計画と財産管理、建築指導課から職員が皆さんの中に入っています。よく市の職員は頭が固いとか言われますが、今日ここにいる職員は頭が柔らかい者ばかりですので、もっともっと知識をもらえるように職員にお話しいただければと思います。よろしくお願い致します。

須部) ありがとうございます。霧島市のこれまでの取り組みということで、宮之原さんからご案内をお願いします。そもそもこのリノベーションまちづくり事業というのを霧島でもやりたいといったのが宮之原さん、発起人といっても過言ではないです。一人の思いから霧島を面白くしたいとかいう思いがある行政マンドだと思います。よろしくお願いします。

宮之原) こんにちは。霧島市がこれまでどんな取り組みをしてきたのかというのをお話しし

ます。そこから未来にどうつなげていくかをイメージいただければと思います。今回、2回目の戦略会議となりました。1回目 9/25 山形屋の芝生の広場で開催しましたところ 120人もきていただきました。今日は 40 人くらいですかね。事務局も含めてそれくらいです。前回私もお時間いただいて話したんですが、全然緊張しないですね。前回、市長、副市長、議員、山形屋社長とか来ていたので、かなり緊張していたんですが今日はリラックスして、あぁいった場では話せないような突っ込んだまちづくりの話をしていきたいと思います。

皆さんのお手元に資料を置いています。霧島市がこれまで行ってきた事業です。特に商工振興課が行ってきた事業が多いです。上が市の事業です。下は年表になっていまして、まちの中でどんなプレイヤーとか事業が表れていくか示したものです。なかなかこういうふうには系統立ててまちづくり考えることないんですが、年表にしてみると面白い。私の中で霧島市のコミュニティができあがったのがキリシマイスター事業からじゃないかと僕の中では思っています。商工振興課に入ったのも 2016 年くらいなんですけれどもこれが始まったから霧島市は動き出したのかなと思います。キリシマイスター事業が始まる前、今の霧島の原点は外からの移住者が今人気のカフェとか農業とかされている方々が今の霧島のパイオニアになっているんじゃないかと思えます。キリシマイスター事業、今となっては超貴重な映像を作っていますのでちょっと見ていただければと思います。最近霧島に来られた方は見たことないんじゃないかなと思います。

#### ～キリシマイスター視聴～

3分のPR動画になっています。このPR動画見たことあるって方どれくらいいますか、半分くらいですかね。今この動画、当初はYoutubeにあげて拡散しまして25万回くらい再生されたそうです。今は市長が変わったのでお蔵入りというかレアな映像になっています。4年前の動画なんですけど、当時も地元愛が強すぎてエリア同士がつながってなかったくらいのきっかけで始まったシティプロモーション事業なんですけど、若干今も同じなのかなと。この事業があって、いろんな人とつながって今があるということで、まちづくりってゆっくりにあるんですけど、皆さんの動きがあって今の霧島があるんじゃないかと思えます。

2015年ですね、キリシマイスターが始まる前に今回委員に入っている徳永さんがLove&Basicというのをみやまコンセールで始められてます。今年6回目。こういった活動も続いていたり。

キリシマイスター事業は市民向けのセミナーをしました。外向けに霧島の情報を発信するためには、霧島市民が魅力を知ってないといけないということでセミナーを何回かしました。そこで初めて会ったのが杉川さん、日永田さんもその場でお会いしました。いろいろ抽出して霧島のおもしろいところどこかなというのを話し合いました。日永田さん、出ていただいたんですけど、商店街の魅力発信ということで、最終的に商店街の方のポスターをつくるということで、最後市民が作成したポスターが出来上がりました。そうこうしていると、ペチャクチャナイトという市民、日永田さんが始められた事業なんですけれども、民間レベルでのコミュニケーションが広がっています。私は霧島ガーデンプレイス始めたりとか、

2017年にひより保育園がはじまっています。

2018年になるとキリシマイスターの事業で、市内の企業で事業されているところを視察に行き、自分で霧島市内で事業を始めるには？というアカデミーを開催しました。今日来ていただいている中村酒造さんにも見学に行っています。本日欠席されていますけれども有村さんも発表を行って、初めて小浜のプロジェクトが発表されたと思います。2018年には委員の増田さんがマルマメン工房に製粉機械が入って、行ったイベントになります。真ん中で徳永さんが餅をついています。去年back field coffeeというコーヒー屋さんができたり。国分の街中で月1回のイベント開いたり、今年に入ったら横川で白水さんが民間レベルのフォーラム開いていただいたりというのが現在動いている事業です。最近牧園町にある市の公共の土地に民間が建物を建ててカフェを作ったり、公共空間のリノベーションが始まっています。福山のほうでは写真やられている方なんですけれども1階にコワーキングスペースつくったりとか。私の中では民間の動きが活発化しているんじゃないかなと思っています。市の事業と民間の動きが一緒になっているか、市が動いたから民間が動いたというわけではないんですが、なにかしら関係があって進んでいるんじゃないかなと思います。リノベーションまちづくりなんですけれども、去年から始めて今年が2年目になるんですけれども、これからどんな霧島になってどんなお店ができていくのかすごく楽しみです。新しい事業も入ってくると思うんですけれども、つながりというかこれまでの積み重ねによって霧島のまちがあるんじゃないかなと思います。ずっと動き続けたいといけませんし、いつになっても終わらないと思っています。これだけ霧島に魅力的なお店が増えていると思うんですが、霧島市はやはり若者の流出が止まらない。この図が20歳から24歳の方が外に出ていってしまっているという図なんですけど、就職なのか進学なのか見えませんが外に出ていく若者が多い。ただ外に出るのは良いことだと思います。この人たちが帰ってくるまちをつくっていくか否か。あとは若者の数が減っていく状況です。割合も20%切るような状況です。この減っていくというのがよくないと思うんですが、他の目線からすると、霧島市の若者人口というのは平成29年の時点で20%、国分隼人は21%、ほかのまちからすると若者の数多いんです。隼人の見次にも若い人結構集まっています。他の政令都市と比べてもかなり若者の数は多い、そこが霧島市のポテンシャルなんじゃないかなと思います。若者は都会に憧れます。市でどれだけ移住定住促進しても、子育て支援を充実させても、若者にとってそれぞれエリアで働き口でも遊び場がなければ若者の流出は止まらないと思います。これからのまちを担うのは若者。若者に選ばれる各エリアにするために大人がやるべきことは何かを考えていきたいです。人口減少するのは言われています。さらに高齢化率というのも上がってきます。そういったまちになったときに持続可能なまちにしていくために考えていく必要があるんじゃないかなと思います。もうひとつ霧島市の根底にあると思うんですが国分隼人はここ10年で人口が増えているような状況です。他の中山間地域については減少をたどっている。どういうふうに穴を埋めていくか。増えていくにも問題があるし、減っていくにも問題がある。その問題をどう解決していくかみなさんと考えていきたいです。今日はSDGsのカードゲームを通してまちを深掘りしていくことになります。私もともとジオパークというところで事業をしまして地質とか火山とかが

好きです。その頃は持続可能な開発を！と思って環境保全とか防災とかやっていたんですけど、今まちづくりとSDGsが一緒になるか不安で、でも楽しみでわくわくしている状況です。コアな写真なんですけど、大地の下は地層がある。火山とか風で運ばれてきたものとか、その上にビルがあったり田んぼがあったりします。これは過去の歴史の積み重ねであって、私たちはその上に立っていますし。火山学というところで年表なんかと一緒になんじゃないかなと思います。自然にはかなわないですけど、まちづくりでは人がこれからのまちを作っていけると考えると楽しいなって思っているところです。今回須部さん含めお二人にお話しいただきますがすごく貴重な時間になると思います。頭疲れるかもしれないんですけど、今日は霧島と世界のこと、自分のことを知る時間になればいいなと思います。私からは以上です。

須部) 宮之原さんありがとうございます。宮之原さんのほうでこういう未来が描けるんじゃないかという思いがあって、今回リノベーションまちづくりという空いている空間とか、人とか歴史とか資源を結び合わせて未来に向けてどういったまちをつくらばいいの、みんながおなじ霧島を描くチーム作りができればいいんじゃないかという感じです。私のほうから自己紹介をしますと、リノベーションまちづくりというのに携わって7年になります。2013年に東京福岡にいたんですが鹿児島に帰ってきて来ました。17年ぶりにまちに帰ってくると衰退しているというのが目に取れて、空き家率が20%近くあります。10世帯のうち2世帯くらいは築15年以上のアパートはそんな感じです。騎射場は投資家が多くて新築マンションが建っているんですが人口はそんなに増えないです。学生は多いですが住民は減っていきますから需要と供給の差が開いていって空室の空洞化がでてくるというのが目に見えるなと思ってまちづくりを戦略的にどうすればいいの、現状とらえてまちを運営するという観点で事業を起こすことが必要ということでイベントをしたりとか人を巻き込んで5年活動しています。そこでリノベーションまちづくりご縁がありまして霧島一緒に作りたいということで今年は初めていきたい、宮之原さんから先ほどあった9月のリノベーションまちづくり戦略会議で当初は50人くらいの参加者予定だったんですが120人という予想を超える人に集まっていただきました。私がやってよかったと思うのはグラレコという、絵でどういった模様だったか描いていただいたんですがこれ処女作なんです。絵で表現してみたらどうっていったら先日の戦略会議の翌日に仕上げさせていただいて、素敵な感じにまとめてもらいました。民間と行政がともに作るとか、ないものねだりとかいろいろ書いてありましたね。共感を生むとか、きっかけをデザインしましょうとか。前回大島さんのお話を聞いたところが集約されています。これなにがよかったかという田代さんみたいな人がやりたいって言うてくれてつながってくれて、共感することで自分たちのまちを自分たちでつくっていったところが芽生えている感じがあります。参加するのが一番面白いので、みなさんが1ずつでいいので参加してもらえると霧島が動くのかなと思います。

全国でリノベーションまちづくりという活動は進められていて10年近くになりますが、76都市地域でやっていますので、今年はお出水市で来年1月にリノベーションスクールがあったりします。実践的にプロジェクト起こしていくという二日間のプログラムになってい

きます。1か月かけて構想練っていくんですが霧島の場合は半年かけて丁寧にやっていく感じですか。今霧島ってどういった課題があるのかを、みなさんに思いをはせていただく時間にしていただきます。どこからやればいいのか、たくさん課題があるので誰がやるか、どこでやるか、何をやるかというのを第三回につなげていければと思います。最終的にこういったプロジェクト起こせば霧島市もっとおもしろくなるし若い人、高齢者とも仲良く出来るんじゃないかと優先順位が来てやっていこうとなったら最終的に皆さんの前で発表できればと思います。

来年はどこから始めるかという、国分の中心地が遊休不動産、1等ビルが空いているところあるので動かしていければと、霧島市と考えてるところです。ということで、今日の目的とゴールの振り返りはSDGsカードゲームを通じてどんな考えが、何ができるかを考えていただければと思います。なぜSDGsかというというのは二人にお任せしたいと思いますが、世界規模、地球規模の課題があるのをみなさんが意識するだけで霧島市で何ができるか軸が繋がると終わるころには体感できると思いますので今からお願いしていきたいと思えます。

大岩根) よろしくお願ひします。もともと研究者をやっていました。甑島がなんで島なんだろうというのを地質から暴くというのをやっていました。大学院では船に乗って、海底はなんで深いんだろうとか調べていました。たまたま知り合いに南極観測隊に誘ってもらってやってみたり、気候変動がこの先どうなるのかというのを知るためにこれまでどうだったか、地球はどうやってできたかというのを調べたりしました。鹿児島にやってきてジオパークの推進というのをやってきました。山に登って実をとって花火作ったり、温泉で遊んだりとかやって三島村の職員だったんですけど硫黄島に通っているうちに好きになりすぎて、役場やめて彼と会社を立ち上げて今に至ります。

野崎) 今日は後ろで子供が遊んでいますが見守っていただけたらと思います。伊集院の生まれで東北、東京に行って帰ってきました。僕は人生通していかに皆がつながって共創ができるかというのを探求してきた人間です。中高生徒会長はしなかったですが、どうしたら良いひとつの学校をつくれるのか考えていました。学生で関西に行って、日本をどうしたらよくできるかというのをやってみたり、大阪で政治家の秘書やっていた時期もあります。東北で震災があってから支援事業の立ち上げをやって、鹿児島に帰ってきたのは5年前です。鹿児島未来会議第3回の総合プロデューサーやらせてもらって、そこで彼と出会って会社を立ち上げました。鹿児島に帰ってきてから市民運動に関わるようになりました。それ以外にも企業の中で共創を生み出すこともしています。これは霧島にも支店があるハウスメーカーの経営会議です。みんなで対話をしたりしています。その中でひとつひとつの企業を超えて社会全体でどう共創をうみだしていくのかがSDGsかなと思ひまして彼と活動しています。

大岩根) なんでまちづくりなのにSDGsという大きいことを考えるのかということなんですが、平たく言うと僕は地球環境の担当なんですが、結構大変な状況なんですね実は。地球上

乗っかっている霧島なので地球が動かないと霧島も動かないよということがひとつあり、実感するのにいいツールとしてSDGsを使います。SDGsというものについてみなさんどのくらいご存じでしょうか。SDGs実は2015年くらいから始まっていて世界経済フォーラム、多国籍企業の経営者、国のリーダーが集まって世界がどうなるかと話をする場なんですけど、ここでも話がされています。平たく言うと、儲かりますとか、雇用が増えますとか言われています。日本の政府も地方創生SDGsの推進ということになってます。地方創生にSDGsがくっついてます。企業も経団連なんかSDGsやるぞという風になってます。自治体もSDGs未来都市というのが設定されるようになってSDGsを活かしてこういうまちづくりをしたいというのが全国に広がっています。SDGsに向けて動いてますよという話です。そもそもSDGsってなんですかということですが、Sustainable Development Goalsの略です。このロゴは見たことある人もいるかもしれませんが、国連に加盟しているすべての国が全会一致で決めたことで、2030年までに17個のゴールを達成するぞと決めました。17個ゴールがあるんですけど1つ1つにターゲットがあります。それぞれの国が責任をもってやってくださいねというものです。グレタが言っているのは気候変動、さかなクンが言っているのは海の豊かさを守ろうとかね。吉本でもやってまして芸人たちがSDGsについての漫才をします。それくらい国もお金出して広めようとしている。



具体的にみてみると、貧困をなくそう、飢餓をゼロに、すべての人に健康と福祉を、質の高い教育をみんなに、ジェンダー平等を実現しよう、安全な水とトイレを世界中に、ここだけみると貧困とか飢餓とか関係なさそうですけど、例えば飢餓に関して食料の問題です。日本の食料自給率ご存じですか。38%くらいです。6割以上が輸入に頼っています。わずか4割弱を支えている農家の平均年齢は70歳に届こうとしています。10年後どうなるかっていうのが関わってきます。次がエネルギーをみんなにクリーンに、働きがいも経済成長も産業

と技術革新の基盤を作ろう、人や国の不平等をなくそう、住み続けられるまちづくりを。まちを動かすためのエネルギーをどうやってクリーンに作り続けていくか。気候変動に具体的な対策を、海の豊かさを守ろう、陸の豊かさも守ろう、平和と公正をすべての人に、パートナーシップで目標を達成しよう。みんなにとっては世界規模の話になりますが、海も大地もつながっています。自分たちの行動がそこに影響してくるし、行動を変えましょうという話です。今日はこういうのをいちいちしません。ゲームを通して学んでいきたいと思います。ゲームなんですけど、ちゃんとしたゲームで、過去3年で10万人以上がプレイしています。NYの国連本部のSDGsを作った人たちがゲームを考えているくらいのちゃんとしたもので学んでいただきます。なんで私たちにSDGsが必要なのか、SDGsがあると世界にどんないいことがあるのかとか、SDGsを通してまちづくりを考えることがなぜ必要かとか。というのをゲームや振り返りの時間を通じて体感していただきたいと思います。今日やるゲームの2030年の私たちの世界がどうなっているかをシミュレーションするゲームです。世界がこの30人だけでできていると考えてください。皆さんが世界の構成員です。2030年どうなっているかというのをカードを使ってシミュレーションします。みなさんにはこのカードゲーム上では、人生のゴールを決めて2030年まで活動してもらいます。皆さんが選んでいただく人生のゴールというのはこの5種類です。大いなる富、悠悠自適、貧困撲滅、環境保護の闘士、〇〇、五つありますけど、要はいろんな人が混在していますよね。例えば大いなる富というのはお金が大事。体きつてもいいから稼ぎたいという人になりますよね。悠悠自適の人はなるべく短い時間働いて自分の時間を大事にしたいという人もいますよね。世の中には貧困があるのは許せないということで子ども食堂している人もいます。海や大気が汚染されているのが許せないという人もいますよね。世の中にあったかいつながり、信頼関係があるのが大事だからいろんなことやりたいなという人もいます。みたいな感じでみなさんが5種類のどれかの価値観になってゴールを決めていただきます。今テーブルにカードが置いてありますが、カードのあるところの二人が一組ということになります。何が何枚以上って書いてありますよね。今日は15チームあります。ゲームの進め方について説明します。お手元のカード確認してください。お金カードが5枚、タイムカードが10枚、プロジェクトカードが2枚。タイムカードは2030年までの有限をカードにあらわしたものです。プロジェクトカードはいろんな活動とか事業です。お金と時間を使ってプロジェクト活動を行うことでそれぞれの人生のカードを達成するシンプルなゲームです。公共インフラの整備というカードがあります。このプロジェクトをやるには使うものという欄があります。お金500、時間3とありますが500億円で3年間かかるようなイメージです。得られるものはお金が1000手に入る、時間が



1手に入る。一つのプロジェクトを達成すると次の仕事 comes。意思カードというものがあります。仕事をした対価ってお金、時間だけではないです。やりがい、経験が手に入る。そういうものもあります。それを形にないけど形になるものとしてカードを使っています。一番下ですね、世界の状況メーターというのがありますがそのプロジェクトをやると世界が動く影響が与えられるという話です。例えば大気中の二酸化炭素がこれくらいだとか、平均株価指数がこれくらいだとか待機児童の数がこれくらいだとか、犯罪率がこれくらいだとかいろんな指数がありますよね。この世界の状況を表すメーターがホワイトボードになります。これが世界の状況メーターで、みなさんの世界の青が経済、緑が環境、黄色が社会の状態を表しています。ここに青の+1、緑が-1と書いてあります。例えば新幹線を通すと経済は活性化しますから青の経済は+1になります。でも山を切り崩したり、トンネルを掘ったりすると環境にはマイナスなので-1になります。みなさんがプロジェクトどんどんやっていくことで世界が刻々と進んでいくわけです。グレーのエリアに必要な世界の状況メーターというのが書いてあります。そのプロジェクトを実行できる条件です。例えば西郷どんが歩いていた時代に新幹線通そうと思っても無理じゃないですか。経済が発展していない、技術がない。ある程度発展してきたからこそ新幹線が通せるわけなので。それを必要な世界の条項メーターということで表しています。5あるか7あるかとか自身の手元にあるプロジェクトが実行できるか判断してください。今日は15チームあるので15チームがプロジェクトやるとまわるわけです。この3つのパラメーターがどんな状態だったらいいのかなというのを意識しながら進めてください。

まとめます。お金と時間を集めて事務局に持っていきます。僕がここに座っているのにお金、時間、プロジェクトのセットをもってきてください。必要なお金時間が確認できたら達成カードというものをお渡しします。もらうべきものをもらって自分で世界の状況メーターを動かしてから席に帰って次のプロジェクトをやっていく感じです。じゃあデモでやってみてもらいます。

<前半の部実施>





大岩根) まず、自分たちのゴール達成できた方挙手お願いします。15 チーム中7チーム達成ですね。おめでとうございます。次に、現在の世界がどんな状況を見ていきたいと思いません。経済が20、絶好調です。みんなお金をバンバン飛び交っています。環境が1、これはどんな状況かという、環境、絶望的な状況です。海からは魚が消え、山から森が消え、気候災害が増えていく。社会が0、社会も絶望的です。戦争が増え、犯罪率も増え、社会にまったくつながりがない状況になりました。皆さんもう一度人生のカードをみてください。バランスの取れた豊かな世界が、とかかいてありますよね。そこに書いてある世界はもちろんこれですし、あのメーターに表されるものです。では後半スタートします。

<後半の部実施>



大岩根) では世界の状況を見ていきましょう。経済が19、環境が11、社会が12です。これは経済が相変わらず絶好調、環境も回復しました。木々、魚も戻ってきてCO2、気候災害も減りました。社会も戦争が終わり、犯罪、待機児童も少なくなり、社会が明るくなりました。SDGs 達成率でいうと100%です。ではいったん休憩です。

<振り返り>

**野崎)**これからカードゲームの振り返りをしていきます。このカードゲームは体験が半分、体験からなにを抽出していくかが半分。このカードゲームは今日のような挙動を必ずするわけではないです。僕らがやってきた中では今日が一番良かったかもしれません。例えば100人でやる場合、会場2つに区切って同時に2つの世界を走らせることがあります。そうすると同じ時間、同じような人が集まっているのに違いが出たりします。イギリスの環境保護団体でやるとこんなことが起きます。何が言いたいかという、この場にいる今日世界を構成した方々のいつもの考えとか行動が反映されて結果は生み出される。そういう意味で今日どんな人たち、どんな考え方、どんな行動をする人たちが集まったからどんな結果が生まれたかというのを振り返っていきたいと思います。まず最初二人で過ごしてもらって話をしていただきたい、どんな指標や目標を意識していたか、後半はどんなことを意識していたか、前半と後半で変化があったらその変化は何によって生み出されたのか。例えば、自分のゴールに対しての行動の変化、世界の状況メーターに対しての意識の変化、他社とか全体に対しての行動の変化もあったかというところです。3分ありますので、ペアで話をしてください。

**野崎)**今まで10万人やってきているのでどういう声があるのかみてみましょう。まず、前半自分のゴールだけに集中していた。世界の状況メーターを自分のプロジェクト実行のためだけに見ていた。どうすれば自分のプロジェクトを実行できるか。自分が得をするか、損をするか。後半になると世界の状況メーターのバランスを意識して行動していた。他者が達成しているかどうかを気にしていた。全体で足りない、余っているモノをどう使うか考えた。やっているプロジェクトの内容を意識していた。みなさんこの24分の間で自分がどんなプロジェクトをこの世界の中で実行したか見ていたでしょうか。(挙手)見ていたチーム1つありますね。ぜひ並べてみてください。自分がどんな活動をこの世界でしたか。達成したカードはこの世界で実行したものになります。どんなことをしたんでしょうか。改めてみるといろんな気づきがあるんじゃないかなと思います。もしかしたら見てたらやらなかったなというプロジェクトがありますか。もしプロジェクトカード見て発見があった方いらっしゃいますか。

**参加者)**大概のプロジェクトはなにかがよければなにかがマイナスなんですけど、全部いいっていうプロジェクトもある。

**野崎)**次に行きますね。前半と後半で変化があったチームありますか。なにがあったかという中間発表。ある人の呼びかけ。場の中でも声を出している方もいらっしゃいました。自分の目標達成できたか、というのが変化のきっかけだったという人もいますかもしれません。

それではもうひとつ、SDGsの本質その1.見える化ということなんですけど、SDGsの本質の一つに現状や目標を見える化するというのがあります。ゲームの中でもあのマグネットがなかったら、世界の状況メーターが見えてなかったら世界の状況が分からないんですよ。さらに全員が見える状態になっていて共有している、それはすごく大きいことなんじゃない

いかということです。さらにカードゲームの便宜上、経済環境社会という3つに分類していますが、SDGsは17に分類されていて、いろんな指標がある。それを世界全体、地球全体で共有しながら今どういう状況かというのをみんなで見ていく。それが世界を変えるきっかけになってるところです。それがSDGsの本質の1つ見える化というところになります。それでは2つめ、次は個人で振り返ってみてほしいです。2つ問いを出します。1つめ、今日の結果、最後の結果といってもいいし、中間発表がいろんな結果になっている。あなたはこの世界にどのように影響を与えましたか。自分自身どのような行動をとったか、あるいはとらなかったか。とった行動、とらなかった行動がありますよね。人によって違う行動をしていない、全員同じ行動はしていないですよ。ずっとゲーム中座っていた方がいいんですけど、歩き回って声を出したり、いろんな行動をとっていた人もいます。ゲーム中どんなことを自分が感じていたか振り返ってみてください。普段の自分が仕事をするとき、友人といるとき、家族といるとき、その普段の思考、行動パターンと今日のカードゲームの中の行動や考えてたことって似ていることがありますか。ぜひ振り返ってみてください。2つめに、このゲームで起こったことと、現実世界につながりがあるとしたらそれはなんでしょう。もし、ここで起こったことが現実で起こっているとしたらどんな状況か、あれば具体的な例も考えてみてほしいと思います。



何人か聞かせてください。

参加者) SDGs のゲーム 2 回目なんですけど、1 回目の反省で自分が満たされていないのに相手は満たせないなということで、自分が黄色を 10 枚頑張ろうとしたんですけど、やれることが少なくて困りました。中間の後に、あっちが動いた分こっちも動けるので、やったほうがいいんじゃないかという呼びかけができた。みなさんのものとチームのものでよくなった

し、意志カードの6/10は寄付でもらったので、意外とまわってくるみたいなものもあるのかもしれないというのが気付きでありました。

参加者) 他の人を支援することで翻って自分の分まで達成できたということですね。

参加者) 現実世界とのつながりということで俯瞰して拝見していたんですが、コロナ禍によってコロナがうつるといのは周知なんですけど、行動だけでなく思いも伝わるんだなと思いました。行動した人とか思いを発信した人を受け入れる受け皿を我々は用意しないといけないなと思いました。この環境、世界でいくと人間はクズになりにくいんだと思いました。

周りの空気もありますしね。ほかにいらっしゃいますか。

参加者) 私たちは大いなる富を目指して最初行動していたんですけど、とにかくお金ってなったんですけど、途中で緑の意志を集めているんですという人たちがいて、そんなの欲しいの？ってなってそういう人もいるんだなと気づいてから、対話とかコミュニケーションをしないと、自分たちの世界でやっていると世界がどうなっているのかわからないということで、話したりとかが一番大事なんじゃないかなと思いました。

大岩根) ほんとにいろんな価値観の人がいますよね。次に行きます。今やった体験とつながるようなSDGsのお話です。風が吹けば桶屋が儲かるってみなさんご存じですよ。落語です。風が吹くと砂ぼこりが舞って、失明する人が出て、三味線引きが増えて、材料になる猫が減って、食べられるネズミが増えて、桶がかじられて桶屋が儲かる。そういう世の中つながっているというお話ですね。これと似たようなお話でスナック菓子が地球温暖化を招くというつながりの話を紹介します。左側が1985年のインドネシアの森の面積を100%だとすると、2012年には47%まで減ってしまいました。今はもっと減っています。この時代すでに森林伐採やめようとかオゾン層がって環境意識高まったはずなんですけど止まってないんです。なぜでしょう。実際にインドネシアに行った方からもらった写真なんですけど、森が燃えているんですね。森林が伐採されています。これは畑に野菜が植わっている話ではなくて1本1本が結構な大木です。オイルパームのプランテーションなんです。このヤシの実の油をとるために木が切られてこういう景色が広がっている、というお話です。これくらいたくさんものにパームオイルが使われています。僕らは年間5キロ使っちゃってます。安いスナック菓子があるということはパームオイル安くしないとイケなくて、それはヤシ農園で効率的に作らないとイケない。そうすると森林伐採で大規模な面積が刈り出されてしまう。すると二酸化炭素が吸収できなくなって地球温暖化につながるというのがスナック菓子が地球温暖化につながるというお話です。風が吹けば桶屋が儲かるのはほんとな、という話ですがこっちは本当です。全部お金とモノでつながっています。さらに残念な話で、森がなくなるということはそこに住んでいた生き物がなくなるということですね。ここまでがうちの土地だとかで紛争が起こったり、安く作るために児童労働ということにもつながります。僕らが安いスナック菓子を買うことで支えてしまっている。だからスナック菓子が森林減少を招いて、温暖化を引き起こしますという話だけではなくて、温暖化によって例えば豪雨災害が起こって海が上がってきてそこに住めなくなるという人が出ますよね。都市部に引っ越さなきゃいけない、でも仕事がない、貧困、児童労働、そうすると教

育が受けられなくなりますよね。教育を受けられない人は早く結婚して子どもを多く設けて人口が増えてしまう、そうすると仕事がますますなくなったり、森に返ってプランテーションではたらくなんてことがあるんですね。いろんな問題がつながりあっているのが今の世界で起こっていることです。例えば貧困の問題を解決したいと思っても、つながっているから貧困だけではダメなんです。だから全部変える必要がある。それで17個のゴールを決めた、これがSDGsです。例えばこれにSDGsをはめていくと、森の話は15番、気候変動13番、貧困は1番、児童労働は12番、教育は4番、まちの人口をどうしていくかということで11番。飢餓みたいなことは…っていうふうにつながっていくわけです。今日はまちづくりというテーマで集まっていますが11番だけやればいいという話ではない時代になっているし、そういう世界に生きているということです。これが2つめです。世界はつながっています。自分も問題の一部、一員であるということです。今日は中間発表までは多くの方が自分のゴールに向かって、自分のことを考えてやってきましたが、途中で気がついてゲームの中の世界全体を見るようになりました。それによって壊滅的だった環境、社会がSDGs達成まで回復してきたわけですね。それはやっぱりみなさんが最初から世界の状況を知っていたけど気づきなおしたことがきっかけです。それは現実世界でも一緒です。ということです。この世界を皆さんが変えたように、世界を変えるためには自分が変わる、普段見ているものが変わる必要があったり、行動を変えないといけないということです。まちづくりというまちのことは変えようとするけどその一員である自分も変わらないといけない。誰かを変えようとしても変わらないんですね。人を変えるのは大変だけど自分なら変われますよと。地球規模のいろんな問題があるんだけども、自分もその上に乗っかっているんだから自分が変わる必要があるし、みんなで変わる必要があるし霧島をよくするためにはみんなで、仲間として変わっていこうということが必要だと思います。というわけでここまでのレクチャーを踏まえて振り返ってください。このゲームの世界でもそうだし、現実世界でもそうです。つながっていて一人一人の意識とか行動が基点になって今日の世界が作り出されています。改めてここまでを思い出しながら話をさせていただきたいなと思います。

(振り返り)

**野崎** ぜひ全体に共有していただけたらと思うんですが、今日のカードゲームの体験からでもいいですし、先ほどの大岩根の話の感想でもいいですし何人が聞かせてください。

**参加者** 私がゲームを通して改めて気づいたことなんですけど、自分たちのチームだけでどうしようかなっているときに、自分だけじゃできないことも人がいるからできるんだなっていう最近、自分自身の現実世界でも気づいたら人が集まってくる、自分が変わったら世界が変わるということにつながるみたいに。自分が変わったからそれに興味がある人が出てくる。出てくる人が集まるからひとつの大きいこともできるというのが今回の感想です。

**参加者** 僕たまたま有村さんと一緒にさせてもらったんですが、やっぱりすごかった。お互い経営者なので、前半戦はさっきもあったように自分たちの成功、自分たちがクリアすることによって初めてクリアすることができた。そしたら、有村さんがあの辺に立って

周りはじめて。それをすごく楽しんでやっていて、自分もそれをつられてやったというか僕一人だったらしなかったなということで、人の力ってやっぱりすごいなと感じたところとです。また、僕は焼酎を作っているんですけど焼酎を紐解いていくと農業にぶち当たったり、こども3人いるんですけど、子供たちのことを考えたらSDGsって絶対避けて通れないんですよね。じゃあ、例えばサツマイモを無農薬で作ったとして、そうなるとうちでも値段があがったり、どれだけの人が欲しがらんだって問題になるんです。お酒の話ばかりしてるんですが、日本酒で新政という秋田のお酒があるんですけど、そのお酒は江戸時代のやり方に戻したりとか、無農薬の方向に行ってみて、それで成功してる。理由はデザインだったり、SNSとかいろんなものを駆使して築き上げたことで、日本全国の酒蔵が新政さんみたいになりたいということで江戸時代の方法に戻したり、無農薬にしたりしている。つまり一人の成功者というのが引っ張っていく力があるなって思ったときに、有村さんもそうですが、自分たちひとりひとりが進んだ方向で成功しないといけないし、だからこそ表現できるデザインだったりSNSの発信方法も含めてやっていく必要があるのかなと思ったので、足並みをそろえる必要はあまりないのかなと。自分たちが進むべき道に進むことで成功した先にいろんな人がついてくるのかなと感じました。

野崎) ありがとうございます。それではこの後席替えします。

(席替え)

野崎) これまでSDGsやってきましたが、霧島市に紐づけていきたいと思います。今日は霧島市のまちづくりの戦略を考える一環ということで霧島市のまちづくりとSDGsってどんなつながりがありそうでしょうか。3分取りたいと思います。考えてみてください。



では何人が聞いてみたいと思います。

参加者) 国分隼人は人が増えていて、ほかの地域は人が減っている状況は、良くはないけどすごく悪いわけではないと思う。お金を稼いで経済を循環させていく役割は国分隼人。自然、観光の役割が地方の方(中山間地域)。そういった役割分担が必要なんじゃないかな、ここから30分行けばいろんな特徴がある霧島だから役割分担できると思います。

野崎) 今日のカードゲームもいろんな役割の人がいたから達成できたのかもしれないですね。もう一人くらいどうですか。

参加者) 17のゴールの最後「パートナーシップ」は他の16とは毛色が違って、今霧島市で大事なのは人と人とのつながり、コミュニケーションをしっかりと作っていくのが必要かなと思って話をしました。こういう場が必要かなと思いました。

野崎) SDGsでも肝といわれる17のパートナーシップ、目標達成しようというのはまさにここじゃないかなと思います。

大岩根) ここまでSDGsって大事だなとか、意味あるなというのがなんとなくわかっていただけかなと思います。そもそもなんでSDGsが生まれてきたのかとか、実際にそれで何が起きているのかということについてご紹介したいと思います。これは13番の気候変動の話です。これは人吉の水害の写真です。去年は台風19号で筑摩川が氾濫したこともありましたね。その前の年は北九州の豪雨。毎年そういうのがありますよね。経験したことないとか50年ぶりの雨が降るとか年に何回も聞くようになったというのが実感として皆さんにもあるんじゃないかなと思います。日本に住んでいるから日本のことは感ずますが、日本だけじゃなくて、カリフォルニアでは熱くなって乾燥して山火事が起きたり、その隣では大寒波が来たり、ベネチアでは過去最悪の高潮が起こったり、ケニアでは洪水が起こり、アラスカでは熱くなって永久凍土に住んでいる人たちの家が傾いたりとかいうことが起こって村ごと移転するようなことが始まっています。気象学者たちが2019年異常気象が新たな状態になった、異常であることが当たり前になったという宣言をしました。地球の気候の仕組みってというのは複雑でリズムがあって、あったかくなったり寒くなったりしてきたんですが、リズムが変わりつつあるし今まで通りじゃなくなってきたということは実は僕らが引き起こしていることです。原因が二酸化炭素だということはみなさんなんとなくお分かりだと思うんですが、それがどのくらいなのか説明します。これはハワイのマウナロア山で二酸化炭素を観測している研究グループがあります。毎年二酸化炭素が右肩上がりになっていると、春夏になると木々が芽吹いて成長して二酸化炭素を吸収してくれるんですね、冬になるとそれが止まって。それが徐々に積み重なって。僕らが二酸化炭素を出し続けるからそれを吸収しきれずにその分が翌年に繰り越されて今となっています。今400ppmという単位で増えています。もうちょっと長い単位でみると右にあがっているところが1958年から、江戸時代くらいから見ると260くらい、弥生はこれくらい。ここで上がったなという感じ。これが1万年間。これが80万年間です。ギザギザしているじゃないですか、氷河

期ってありますよね。二酸化炭素が少なく寒い時期なんですけど、そういう変動はもともと地球が持っていた変動としてあったんだけど、明らかにそれとは違うレベルにいっちゃってるというのが分かります。ありえないレベルに僕らが二酸化炭素を押しやってしまった。さっきのスナック菓子の話もそうですけど、車走らせたり、クーラー使ったり、お湯使ったりっていうことでみんなの力で押しやったということでもあるんですね。今は気候非常事態って言われるような時代になっています。江戸時代から比べて+1.5°C平均気温が上がってしまうと徐々にあったかくなるだけじゃなくて温暖化の悪循環のスイッチが入ってしまうといわれています。さっき紹介した災害がもっと頻繁に起こるようになるし、激しくなることを意味しています。研究者たちも今までの研究者たちが調べた結果では1.5°Cから2°Cの間どこかにそのスイッチがあることが突き止められているんです。だから1.5°Cで抑えようといっています。2°Cまでいくと確実にそのスイッチが入ってしまうからそこまでいくと2100年までに4°Cあがってしまいます。だけど今すでに1.1°C温暖化していて、でもCO<sub>2</sub>の排出が収まる気配はないんですね。今だったらまだ間に合います。今の様子だと2030年には1.5°Cいくといわれています。今週菅さんが2050年に実質ゼロにしようって言いましたけど悠長なこと言ってる場合じゃないんですね。最初言いましたけどグレタが怒って学校に行かないとか国連で演説してニュースになっていましたけど彼女が怒っているのはそういう話です。それくらい切羽詰まっているのに大人がまじめに対策とらないことに怒っている。それによって世界中で気候変動に対してなにかしようという動きが起こっている。日本ではあんまりそんな感じしないけど世界はそんな感じ。二酸化炭素を出している原因の人たち、自動車業界がまず変わっています。フランス、イギリス、ドイツはディーゼル車をなくということを言っています。日本も2050年までに無くそうといっています。中国、インドはもっと急で2030年までに全部電気自動車にしようと言っています。それはインドだったら大気汚染で120万人なくなっているけど電気自動車ができているからそっちにシフトしようとしている。国レベルの話ですが、企業もEV作ろうっていう風に動いています。トヨタもSDGs取り組むって、工場からCO<sub>2</sub>ださないとか、車をリサイクルするとか具体的に動き始めている状態だったりします。それくらい大企業、国のレベルではかわってきているというお話です。2つめの例ですが、トランプが当選して直後にパイプラインの建設にGoサインを出しました。これはオバマの時に環境とか人権によくないからやめさせたんですけど儲かるからやれとGoサインを出したニュースです。このパイプラインというのがずっと引いて石油を運ぼうというものなんですけど、先住民がいたりするところを横断しちゃうからよくないなという話です。もともと17の銀行がお金をだすといっていたんですが投資家たちがそんなプロジェクトに金出すなと銀行をしかりつけたんですね。わかりましたということでお金をひきあげた。トランプがGoサインを出しても環境とか社会によくないとストップがかかる。そういう世の中になっているんですね。今環境とか社会に配慮した企業でないとお金が借りられないとかお客から選ばれないとか世界の潮流としてあります。投資の際に8割の投資家が環境とか社会に対して適切な行動をとる企業かどうかで投資を決めているということでした。ここからまちづくりの面に入ります。そういう風なまちをつかっていこうというのがヨーロッパでは動いているんですね、コペンハーゲンですが車持っ

ていない人にやさしくないまちになっていたので自転車のまちづくりをしています。例えば自転車のまま地下鉄に乗れるようにしていたり、自転車専用の橋を架けるみたいにして走れるようにしたり時速 20 キロで走ると信号のタイミングがよくなるようにしたり、郊外からでも通勤しやすくなる。都心部の駐車場減らして自転車が動きやすくなるようにしている。車を運転できる人より、自転車運転できる人のほうが圧倒的に多いのでそうした人たちが便利に暮らせることで車を運転できない高齢者とか子どもとかにも優しいまちをつくるようにしています。こういうのは自転車の都市設計とかもそうですし、公共交通の人たちが乗り物を変えていくことも。もうちょっと個人でできる例は実はフードロスの削減が温暖化対策に効くといわれています。今作られている食べ物の 3 分の 1 が捨てられているといわれています。腐ったり食べ残しでとか。ミシュランの 3 つ星シェフが腐りかけのものをもらってきてそれで料理して安く提供するというをやっています。あるスーパーは廃棄食品専門のスーパー、消費期限が切れたものを安く売る、例えば 8 割引とかで売っていることをやっている。ごみを売っているけど儲かっている。そういうのも二酸化炭素を減らす目的でされている。イタリアでは食べ物を捨てることは罪になりました。病院に寄付するとか、食べ物のロスをださないことで経費削減をすると同時に、温暖化対策をしている。ここまでショートレクチャーまとめると気候変動は危機的状況です。社会の仕組みとかライフスタイルによって CO2 は出ているので一気に変えていかなきゃいけない。実際に国とか企業とかそこに反応して SDGs 大事だと気付いて動きが始まる。例えば自転車にやさしいまちをつくるとかフードロスをへらすとか、化石燃料を燃やすものから自然エネルギーに変えていこうとかいろんな分野で SDGs の取り組みが始まっています。霧島が持続可能であるためには世界が気候災害が少ないのももちろんいいですし、普通に暮らしているだけでインドネシアに迷惑かけないほうが気持ちよく暮らせる。そういうことも含めて今やっている事業とかどういうふうにしフトするかがいいのかな、ここまでの一日を通じて印象に残っていることとか今感じていることを、グループでお話していただきたいなと思います。



野崎) ここからまた霧島市と SDGs を深めていこうと思います。さっきの休憩前の気候変動だったり世界の動きがあるということと霧島市のまちづくりの文脈が重なって回想とかあってと想像します。ここからお手元にワークシートお渡ししています。経済、環境、社会この 3 つの観点から霧島市をみていこうということです。みなさんひとりひとりそれぞれの地域で暮らしているので、見えている景色ってそれぞれだと思うんですよ。価値観もそうですし、なにをもって経済がうまくいってるかどうかというのは人によって見る指標が違えばつける点数も違うので、それがいいと思っているというか、ここにいるみなさんが今の霧島をみたときにどんな風にとらえるかというのを書き出してみたい。それを後で共有したいと思います。この後、霧島のまちづくり戦略会議の中で出してもらった強み弱みを考えていくことになるので、みなさんの見方をくださいということです。やり方は点数と書いてあるところに、赤は赤で使うので青、緑、黄色を 10 点満点で貼ってください。自分なりの答えというか自分の考えが直感で構わないのでその分だけシールを貼ってください。点数を付けた分だけの強みがあるだろうし、足りないと思うことは弱みなんですよ。直感で点数をつけたものの理由付け、肉付けをしてほしいということで強みと弱みを枠にいっぱい書いてください。霧島の環境の弱みもしあれば、たくさんだしてほしい。あとは壁に張り出してみんなで眺めてみたい。人と違っていいです。そこに価値があります。では始めてください。

#### <霧島の状況メーターと強み、弱みの作成>

まずですね、グループで個人で考えられたことをみなさんに共有してみてください。

(共有)

それではみなさん、机にマスキングテープを 8 枚ずつ貼っています。それを両端に付けて張り出してください。皆さんで眺めてみてください。



#### <人生のゴールと自身のプロジェクトを作成>

野崎) 今ですねテーブルに 2 枚のカードを配りました。4 枚ずつテーブルに置いているので手に取ってみてください。なんにも書いてないカードを配りました。今日はカードゲームをやるために、最初に人生のゴールでババ抜き形式で選んでもらいましたよね。便宜上与えたものですが、実際の皆さんの人生もこの状態でそれぞれ自分の人生のゴールがありますよね。それぞれの人生のゴールに向かってなにかのプロジェクトをしている状態だと思い

ます。それをぜひ今日はいったん考えてもらいたいんです。今日もゲームの世界の状況メーターを通して考えてきたように自分の幸せとかありたい暮らしとか、霧島の暮らしも世界のこととつながっているし、個人の人生のゴールを追い求めるだけではなくて、自分の事業を通して霧島を、世界を幸せにしていくことバランスをとっていくことが同じことだというのがだいぶ腹に落ちてきたと思うんですね。それを踏まえてもう一回、自分の人生のゴールとか世界に向けた持続可能なプロジェクトをあらためて考えてもらいたい。

リノベの戦略委員の方は前回考えてもらっていると思うんですけど、改めてそれについて考えてもらってもいいですし、今日を踏まえてこんなプロジェクトが霧島にあったらいいなというのを考えてもらってもいいし。ワークシートを配っています。それに改めて自分の人生のゴールと持続可能な霧島や世界に向けた霧島にあったほうがいいものを書いてみてください。霧島の状況メーターの変化と内容というのをプロジェクトに書いていますけど、いまみんなそれぞれ見方は違うけど霧島の経済環境社会ということで出したわけですよ。これがゲームでいうと世界の状況メーターは一つでしたけどいろんな見方があるということで目の前にある霧島こういう状態だという経済、環境、社会プラスしたりいろんなことあると思うんですね。ぜひそういう観点で考えてみてほしいです。弱みをいろいろ書いてもらったそれをきつとプラスにするのがプロジェクトになると思いますし、強みをもっと強みになるし。強みを生かして世界に貢献するとかそういうのもあるかも。既に人生のゴールを決めていて明確にできる方もいらっしゃると思います。普段書いたりすることないと思うので書いてみたり。新しいプロジェクトを書くだけでなく、すでに頭の中にあるやりはじめていることでSDGsの枠で考えると新しく見えてくるかもしれないし。ここにいるみんなに共有するので。人生のゴールはみんなに共有はしないので。プロジェクトカードの方は張り出してみんなで見れたらと思うので。書いてみてください。ちなみに霧島の状況メーターの変化の方は、もともとのプロジェクトカードは+1とか-1しか書いてなかったけどどういうふうにプラスになるかその内容を書いてほしくて欄を厚めにしています。こういう変化が起きるというのをありありと書いてほしいですね。人によってはゴールカードのプロジェクトの内容が一貫してつながっている方もいるし、人によっては自分のゴールに向かうものではないけども霧島にこれがあったほうがいいということでプロジェクト書く人もいます。最終的にはプロジェクトカードを全体に共有できたらいいなと思います。

(書き出し)



次は張り出したいなと思っています。プロジェクトカード貼ってほしいんですが、ゴールカード貼ってもいいよという人いたら横に貼ってみてください。赤いシールは共感したところに貼ってください。



野崎) では締めます。みんなからいいね、をさせていただきました。人によっていいね、をした観点も違うし文字からの情報だけではわからないこともたくさんあるだろうし、名前も書いてないし文字だけの情報で投票していただいたわけなんですけども、今日この中で一番いいねが集まっていたのがサブカルチャー底上げプロジェクトです。書いた方出てきていただいて。ほんとはみんなに聞きたいけど一人だけでも内容を。

参加者) このプロジェクトなんですけど、霧島で活動する次世代の文化につながるであろうサブカルチャー、そういう議論もカルチャーだと思っているので、そういう人たちを目に当たるところに持っていかうということで考えました。それで、それぞれのコミュニティを構築していくことで、サブカルも音楽とか絵描きとかアーティスト、モノづくりしている人たちが単体でコミュニティ構築してもらって



そのコミュニティの集合体をつくるイメージです。そうすると個人での活動は難しいけど全体のコミュニティで力を発信できるんじゃないかというプロジェクトです。それやることでまち自体の底力が上がるんじゃないかなと。ぼくはそういう取り組みをしているんですが、そこにあるんじゃないかと信じているのでやってみました。

野崎) あと二人くらい聞いてみていいですか。じゃあ霧島でつながる会。どうぞ。

**参加者** プロジェクト名が霧島でつながる会というタイトルです。内容はいろんな多種多様な業種の人とかがつながる場でそれぞれの人が必要なものをそこで表現したり自分ができ



ることをそこで分かち合うことによって悩んだりとか困っていたりとかしたら結果的にサポートしあえる場ということで。そうしていくことでそこにいる人たちが霧島をどんどん好きになっていって、それが周囲の人たちに伝わっていく。そうして人が集まる場所になったらいいなということでした。

**野崎** じゃあ、最後。クラフトビールの盛んなまち。

**参加者** このプロジェクトは、自分が霧島でビールを作っているんですけど、ポートランドがきっかけでビールを作りたいなと思って学んできました。アメリカには醸造所がいっぱいあって楽しい。地元の人がそういうまちを愛しているので、自分も作って地元の人がビールって面白いなと思うところをつくりたいとおもってプロジェクトを考えました。製造工程でパッケージングだったり、酵母の培養だったり、麦芽とかを地産地消でできれば雇用も増えるだろうし、作ったものを畜産の飼料にしたり、良いサイクルができると思っています。



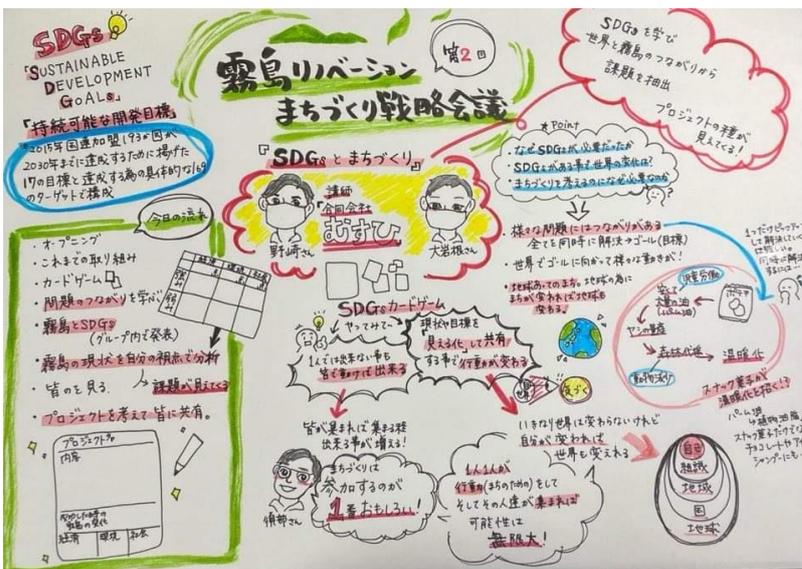
**野崎** 今日は霧島のまちづくりの戦略の全プロセスの中の1日でしかないんですけど、今日見させていただいて全部わくわくするし、ひとりひとりこのプロジェクトを実現していったら霧島はすごいまちになっていくんだと思います。こんなにバランスのいい自分の自己評価としてだすまちは珍しいと思っていて、これが霧島の強みなんだろうなと思いました。事務局の方々がこれをまちの戦略に落としていくかというところです、すごく大変だと思うんですけど、いい素材になったんじゃないかなと思います。ありがとうございました。

**大岩根** 僕が感じたのは、場の空気がとてもよくてみなさんのエネルギーがストレートに見えました。最初メーターが経済しかなかったじゃないですか。そこから全部達成したみなさんの底力があるなあと感じました。あれくらいのV字回復はみたことないですね。前半はひどかったんで。実はそのつながりがあって、助け合ったりとかが起こってあの結果になったし、それができる素材がみなさんのなかにあるんだなというのを見せていただいた。みなさんのプロジェクト話しているのを聞いていたんですけど、具体的で面白いアイデアがでてきているし、やってきた皆さんだからこそのつながりとか強みが今からでてくるし生まれ

てくると感じました。ここから戦略をつくりあげていくとか、プロジェクト実現させていくのは大変だと思うんですけど、今日のつながりとか、霧島でのつながりを大事にしていってほしいと思います。

須部) はい、改めましてお二人ありがとうございました。ということで5時間あったという間でしたね。お疲れ様でした。まとめの時間をとりたいと思います。みなさんのおかげでこれだけの数のみなさんの思い、アクションプランみたいなものが抽出できました。これを1か月かけて宮之原さんがまとめる。非常に重い業務が待っておりますが、おかげさまでここから霧島ってみなさんがどういう風に見ているとか、俯瞰的に見させていただいて、そこからいろんな人がいて面白いと思いました。クラフトビール作っている人いたり、サブカルここにくるかとか思ったりしました。いろんな人がいるというのを可視化できたことで、じゃあどこからやればいいのかというところを第3回12月6日にやるんですけど。そこからSWOT分析というのをして落とし込んでいきます。第4回は2月21日、ここから抽出したものを戦略的にまとめたものを、皆さんに発表していきたいと思います。

最後、私から総評すると、なんとなくSDGsカードゲーム体験していただきたかったのは自分一人ではできないけどみんなが動くと、全体でよくすることができるよねということを感じてきました。冒頭に言いましたけど、参加して自分一人だけでやるのは大変ですけど、みんなが1の力でやることで全体が動くということが体験できただけでも、自分の少しのアクションが全体を変えることができるということを、みなさんに共有できたのがうれしかったです。次、戦略的にどこからやっていくかというのを行政と民間がいっしょにやるのは、霧島市では初めてなんです。全国でやっているけれども正解ってというのがないので自分たちもこれがいいと思っても、こっちがいいとか修正しながらやっていますので、ひとりひとりの力が必要になります。私も宮之原さんも声を上げますのでみんなで一緒にやっていければと思います。ありがとうございました。



グラフィックレコード  
戦略会議参加者  
田代明歩氏 作